

九州大学総長の久保でございます。

本日は、伊都キャンパス完成記念式典へお越し頂きまして誠にありがとうございます。まず初めに、現役学生が登場する伊都キャンパス完成までの軌跡を描いた動画をご覧ください。

<動画放映>

九州大学伊都キャンパス完成記念式典にあたりまして、九州大学を代表して御挨拶申し上げます。

本日は、御多用中にも関わらず、麻生副総理兼財務大臣、宮川文部科学大臣政務官および文部科学省の関係者、国会議員の方々、在外公館関係者、小川福岡県知事、高島福岡市長を始めとする地方自治体の方々、松尾名古屋大学総長、西尾大阪大学総長などの大学関係者、麻生九州経済連合会会長を始めとする地元経済界、貫福岡同窓会長など国内外の同窓生、キャンパス整備に関わっていただいた方々など、多数の皆様に御臨席を賜り誠にありがとうございます。

このたびの伊都キャンパス完成まで、多大な御支援を賜りましたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

本日、記念式典を迎えることができましたことは、学生・教職員一同にとり、無上の喜びであります。

本学が、平成の時代をかけて取り組んできた一大事業が、伊都キャンパスへの移転です。平成3年10月、「新キャンパス移転構想」を決定して以来、学内外の数多くの方々の協力を得て、移転事業を推進してまいりました。

平成17年10月、工学系を最初に、移転が開始され、その後、六本松キャンパス、理学、農学そして人文社会科学系の各研究院および図書館などが移ってきました。

移転が進むにつれ、キャンパス周辺の環境も整い、交通面では、JR 九大学研都市駅が開設され、4車線の学園通線も開通しています。加えて、「九州大学学術研究都市推進機構」による福岡市産学官連携交流センターの整備なども進められてきています。

さて、来年は皇太子殿下が新天皇に即位され、日本は新しい時代を迎えます。九州大学も平成という移転の時代を終え、この伊都キャンパスを拠点として、新たな時代を歩み始めます。これまでの感謝と将来への決意をこめて、「伊都キャンパス宣言」を発表します。

伊都キャンパス宣言

九州大学は 1911 年、当時の政府により、産業・エネルギー革命の時代的要請、勃興しつつあったアジアの玄関口にあたる地理的重要性、そして西日本における先進的人材育成の必要性により福岡に設立されました。その後多くの学部や研究所等を増設して我が国有数の総合大学として発展し、人類社会の発展に貢献する様々な研究成果を生み出すとともに、アジアを中心とした国や地域と学術・教育交流を深め、数多くの有為な人材を社会へ送り出してきました。

九州大学は、「時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」、「世界最高水準の研究・教育拠点の創造」をコンセプトに、箱崎、六本松、原町のキャンパスを統合移転し、福岡市西区元岡・桑原、糸島市にまたがる地区に伊都新キャンパスを整備してきました。

伊都キャンパスは、1500 年以上前から我が国と大陸とをつなぐ文化の結節点であり、当時の我が国最先端の文化が往来した場所にあり、豊かな自然環境に恵まれた丘陵地です。東西 3km、南北 2.5km、272ha の広大な敷地を『自然と歴史のオアシスキャンパス』として整備し、地下水や生態系、歴史的な遺跡の保全と共生に努めています。

このキャンパスを東西に走る 2000 メートルの通路は、まさに人文社会科学系から理学、工学、そして農学と幅広い学問をつなぐとともに、過去から未来への架け橋であります。

私達のキャンパスは、

1. 世界をリードする人材と新しい科学を生み出すキャンパス
2. 未来社会を切り拓く研究成果の実証実験の場としてのキャンパス
3. 歴史や自然など豊かな環境と共生するキャンパス

を目指してまいります。

九州大学は、学生や教職員が世界の人々と、学びあい、語り合い、競い合う、機能的で美しいキャンパスを得ました。

今日新たに大学のイノベーションの扉を開き、九州大学から日本、世界へ発信し、未来に向けて躍進し続けることを誓います。

これからの九州大学にどうぞ御期待ください。

平成 30 年 9 月 29 日 九州大学総長 久保千春